

第3章 評価項目作成支援ツールの開発にかかる作業部会について

職業能力開発総合大学校能力開発研究センターでは、これらの評価項目作成支援ツールの開発を行う作業部会を設置することとし、上記第2章に記載したツールの開発に係る基本的な考え方にに基づき実施しました。

第1節 作業部会委員の選出

作業部会委員は、機構で開発した生涯職業能力開発体系を活用することから全国の機構の職業能力開発施設の指導員とし、平成16年10月実施予定の公共職業能力開発施設のカリキュラムを参考として関連系ごとに2～3名を選出しました。その中には、平成16年10月から開始する公共職業訓練活用型日本版デュアルシステムの実施施設の指導員も含むこととし、合計11名としました。

第2節 作業部会の開催

作業部会の開催は、当初3回を計画し、その中で各委員のコンセンサスを得ながらツールの作成を行い、細かな作業等は事務局と各委員との電子メールのやり取りで行いながら各系の評価項目様式1～5の作成を行うことを予定していました。しかし、結果的には、第2回目の部会までに各系の意見集約、モデル様式のたたき台が完成したため、第3回目の部会は中止とし、細かな調整は電子メール等で対応しました。

○作業部会日程

- ・第1回作業部会：平成16年6月22日（木）14時～23日（金）15時
 - ・第2回作業部会：平成16年7月22日（木）14時～23日（金）15時
- それぞれ職業能力開発総合大学校能力開発研究センター会議室で実施しました。

第3節 作業部会の検討事項

1. 第1回目の議題及び検討事項

- (1) 議題1「企業活用型訓練における評価項目について」
 - イ 日本版デュアルシステム協議会報告書について
 - ロ 日本版デュアルシステムにおける評価基準について
- (2) 議題2「企業活用型訓練におけるモデル評価時の評価項目について」
 - イ 日本版デュアルシステムに企業活用が訓練時の評価項目について
 - ロ 日本版デュアルシステム訓練の企業活用型訓練時の評価イメージについて
- (3) 各作業について

2. 第2回目の議題及び検討事項

- (1) 議題1「企業活用型訓練における評価項目について」各系進捗状況報告
 - イ 様式作成について結果の点検
 - ロ 各様式の調整
 - ハ 取り組み施設でのサンプル版の作成
- (2) 議題2「企業活用型訓練におけるモデル評価項目の作成手引き書について」
 - イ 手引き書の校正について
 - ロ CD-ROMの構成について
- (3) 議題3「試行実施施設での評価項目の作成トライについて」

第4章 日本版デュアルシステムOJT（又は企業実習）評価項目作成支援ツールの利用の手引き

第4章では、本ツールの作成に当たってベースにした日本版デュアルシステムにおけるOJT等の評価についての考え方を述べたあと、本ツールを利用した場合の評価作業の手順と使用する様式について説明しています。

なお、第4章の内容は、今回制作したCD-ROMに収録してある「利用の手引き」をほぼ引用しています。（本報告書と重複する部分は除きました。また、編集の都合でCD-ROM版と文章の項番号が異なるところがあります。）

また、本章以下では、本ツールを利用した場合の評価作業の手順について説明していますが、日本版デュアルシステムにおけるOJT等の評価に当たっては必ずしも本ツールをこのとおりに使用しなければいけないわけではなく、本ツールはあくまでOJT等の評価を行う企業等の負担を軽減しつつ適切な評価の実施に資することを目的としたものですので、その点にご留意いただくようお願いします。また、本ツールをご利用いただく際にも、第2章（2）に記載したとおり、教育訓練機関と実習受入企業が十分打合せを行い、それぞれのOJT訓練の内容を十分反映した形で様式や評価項目等を決定していただくようお願いします。

第1節 日本版デュアルシステムの類型と訓練の呼称

日本版デュアルシステムの基本類型は、イ 教育訓練機関主導型、ロ 企業主導型、の2つとされており、教育訓練機関主導型はさらに次の①～③の類型があります（協議会報告書）。

- | | |
|---|-------------------|
| イ | 教育訓練機関主導 |
| | ①公共職業訓練活用型 |
| | ・ 専門課程活用型 |
| | ・ 普通課程・短期課程活用型 |
| | ・ 委託訓練活用型 |
| | ②専門学校等民間教育訓練機関活用型 |
| | ③認定職業訓練活用型 |
| ロ | 企業主導型 |